

【保健師に求められる役割と機能】

〈 I 案 〉

A. 地域全体及び地域の人々の健康の保持・増進をはかり、健康状態を認識し行動変容をはかることができるよう支援する
B. 常に広い視野で時勢や地域をとらえ、科学的に情報収集し、地域全体及び地域の人々のアセスメントを行い、顕在する健康問題を把握するとともに、潜在する新たな健康問題を予測する
C. 地域の健康課題について、社会資源を活用・調整し、地域の人々、関係機関、他職種と連携・協働し、適時組織的に解決をする
D. 健康課題の解決をはかる過程の中で、社会構造を視野に入れ既存の社会資源を評価し開発や仕組みづくりにつなげる
E. 個人に対する支援、集団に対する支援を組み合わせ、互いに連動させることで、地域全体の健康の質を維持・向上させる
F. 社会資源の質を保証し、公平な利用と分配を促進、運用し、平常時より危機に備え体制づくりや機能強化をはかり、また、健康危機発生時には健康被害の拡大防止と収束のために活動する

〈 II 案 〉

1. 保健師は、地域の全ての人々の健康水準の向上と保護のために、公衆衛生看護学と社会的公正に基づいて、人々や環境に、人々とともに、働きかける高度専門職業人。
2. 地域特性や時代に応じ、集団/地域にも、個人/家族にも、健康増進活動および行動変容の支援を、ポピュレーション・ハイリスク双方のアプローチで促進、展開する。
3. 顕在する健康課題のみならず潜在する健康課題や健康の不平等、健康格差を予測・発見し、様々な対象者の対象がマイノリティや孤立しやすい人々であっても問題を明確にして、対象の権利擁護と環境の基盤整備を推進する。
4. 平常時からの地区管理で、健康づくりに関する住民主体の地域組織や自助組織、健康危機に対応するセーフティネットの構築を支援するとともに、新興の健康課題を探索し予防的・予測的に対応する。
5. 多角的・系統的な公衆衛生看護診断による健康課題の明確化に基づき、企画立案・実施・評価を経年的・系統的に展開し、総合調整する。
6. 地域の組織や制度、社会資源、仕組みを鳥瞰的に見て、構造的に捉え、それら環境面の課題を明確にして、関係機関と企画調整や施策化、社会資源開発、仕組みづくり等への目標を共有し、合意形成をはかり、協働しながら継続的・組織的に改善・開発・管理する。
7. 行政分野だけでなく、産業保健分野、学校保健分野における2~6を理解する。

【保健師に求められる実践能力及び基礎教育修了時の到達目標（今後検討予定）】

		保健師の基礎教育修了時の到達目標	
1. 地域の人々/全体の健康課題を明らかにする	A. 地域の人々/全体の生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする	1	身体的・精神的・社会文化的側面から客観的・主観的情報を収集し、アセスメントする
		2	対象者および対象者の属する集団を全体としてとらえ、アセスメントする
		2	社会資源について情報収集し、アセスメントする
		3	自然および生活環境（気候・公害等）について情報を収集し、アセスメントする
		4	健康課題を生活者である当事者の視点を踏まえてアセスメントする
	B. 地域の人々/全体の顕在的、潜在的健康課題を見出す	5	多角的、系統的、経時的に情報を収集し、アセスメントする
		6	顕在している健康課題を見出す
		7	健康課題を持ちながらそれを認識していない・表出しない・できない人々を見出す
		8	今後起こりうる健康課題や潜在している健康課題を予測する
		9	活用できる社会資源とその不足・利用上の問題を見出す
		10	地域の人々の持つ力（健康課題に気づき、解決・改善、健康増進する能力）を見出す
2. 地域の人々/全体と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	A. 地域の人々/全体の健康課題に対する支援を計画・立案する	11	健康課題について優先順位をつける
		12	目的・目標を設定する
		13	地域の人々に適した支援方法を選択する
		14	実施計画を立案する
	B. 地域の人々/全体に対する個人及び集団に対する支援を連動させ、健康課題を解決・改善する	15	評価の項目・方法・時期について、評価計画を立案する
		16	地域の人々の生活と文化に配慮した活動を行う
		17	地域の人々の持つ力を引きだすよう支援する
	C. 地域の人々/全体の健康増進能力を高めるための活動を展開する	18	地域の人々が意思決定できるよう支援する
		19	訪問・相談による支援を行う（集団を対象とした訪問・相談には、施設や事業所の訪問等を含む）
		20	健康教育による支援を行う
		21	地域組織・当事者グループ等を支援する
		22	活用できる社会資源、協働できる機関・人材について、情報提供をする
		23	支援目的に応じて社会資源を活用する
		24	当事者と関係職種・機関でチームを組織する
25		個人/家族支援、組織的アプローチ等を組み合わせ活用する	
26		法律や条例等を踏まえて活動する	
27		危機状態（DV・虐待・災害・感染症等）への予防策を講じる	
28	危機状態（DV・虐待・災害・感染症等）に迅速に対応する		
29	目的に基づいて活動を記録する		

		保健師の基礎教育修了時の到達目標	
2. 地域の人々／全体と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	D. 地域の人々／全体の健康課題に対する活動を評価・フォローアップする	30	活動の評価を行う
		31	評価結果を活動にフィードバックする
		32	継続した活動（含フォローアップ）が必要な対象を判断する
		33	必要な対象に継続した活動（含フォローアップ）を行う
	E. 地域の人々／全体の健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高めるために、地域の人々・関係職者と協働する	34	地域の人々とコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く
		35	地域の人々と必要な情報を共有し共通の活動目的を見出す
		36	地域の人々と互いの役割を認め合いともに活動する
		37	関係職者・機関とコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く
		38	関係職者・機関と必要な情報を共有し共通の活動目的を見出す
		39	関係職者・機関と互いの役割を認め合いともに活動する
3. 地域の人々／全体の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する	A. 地域の人々／全体の健康にかかわる事業等を立案し、管理する（施策化）	40	施策（事業・制度等）の根拠となる法や条例等を理解する
		41	施策化に必要な情報を収集する
		42	施策化が必要である根拠について資料化する
		43	施策化の必要性を地域の人々や関係する部署・機関に根拠に基づいて説明する
		44	施策化のために、関係する部署・機関と協議・交渉する
		45	地域の人々の特性・ニーズに基づく施策（事業等）を立案する
		46	組織（行政・企業・学校等）の基本方針・基本計画との整合性を図りながら施策（事業等）を立案する
		47	予算の仕組みを理解し、根拠に基づき予算案を作成する
		48	施策（事業・制度等）の実施に向けて関係する部署・機関と協働し、活動内容と人材の調整（配置・確保等）を行う
		49	施策や活動、事業の成果を公表し、説明する
	50	保健医療福祉サービスが公平・円滑に提供されるよう継続的に評価・改善する	
	B. 地域の人々／全体の生活と健康に関する社会資源の開発とその質を保証する	51	地域の人々の権利擁護のために個人情報適切に管理する
		52	地域の人々の尊厳と権利・プライバシーをまもる
		53	倫理的に検討・判断した上で実践する
		54	生活環境（気候・公害等）の整備・改善について提案する
		55	地域の人々が組織や社会の変革に主体的に参画できるよう機会と場、方法を提供する
		56	地域の人々や関係する部署・機関の間にネットワークを構築する
		57	広域的な健康危機（災害・感染症等）管理体制を整える
		58	必要な地域組織やサービスを資源として開発する
		59	効率・効果的に業務を行う
		60	研修の企画等を通して保健医療福祉サービスの質を高める
61		社会情勢と地域の人々に応じた保健師活動の研究・開発を行う	
4. 保健・医療・福祉および社会に関する最新の知識・技術を主体的・継続的に学ぶ			

（第1回参考資料4-1「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」を一部改変）